



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第36回例会(4月4日)
平成26年4月11日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

幹 事 長 平井 滋
副 幹 事 平野 佳則
会 報 金子 眞也
クラブ直通電話 TEL(653)5682

Engage Rotary. Change Lives. "ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を"…… Ron D. Burton



ゲスト卓話

「妄想と諦めない心」

(株)ホップス 代表取締役
工藤 昌代 様

スピーカー紹介

盛岡生まれ。神田外語学院専門学校卒業後、株式会社TISシステムマネジメント入社、コンピュータと初めてかかわりをもつ。プログラミングをもっと習得したく転職。社会人になってから3つの会社を経験したのち1996年11月1日有限会社(現株式会社)ホップスを設立。Webコンテンツ制作、東北の逸品を紹介するショッピングサイト「まがりや.net」を運営。ショッピングモールを立ち上げるパッケージ「モリオカート」の提供も行う。

自己紹介

会社を立ち上げまして、今年で18年になります。1996年11月有限会社ホップスの設立です。資本金300万円。Web制作会社で、プログラミングもデザインも両方こなす会社です。ショッピングサイト構築の経験をかかし、「まがりや.net」という東北の逸品を紹介するサイトの運営も行っています。現在生産者さんが約80社登録され、約450アイテム程取り扱いをしています。また、同じようなショッピングモールを提供できるように「モリオカート」というASPソフトを提供しています。

経営の危機、一緒に頑張って来た役員の退職。リーマンショック。2011年の震災。その反面、様々な人と出会い、共に喜び、共に涙を流す大切なスタッフ、そして私たちを成長させてくださるお客様に恵まれました。本当に山あり谷あり、この18年間谷の方が長かったような気がします。良いときはそう長く続かず、でも反対に悪い時もずっと続く訳ではない。本当に会社は生き物だなと実感している今日この頃です。

よく、なぜ会社を立ち上げたのですがと聞かれるのですが、もの凄く高い志があった訳ではなく、そろそろ自分で初めて見ようかなという緩い感じでスタートしました。スタート時は会社と言っても個人事業者と同等で、アパートの一室でデザインしたりプログラムを作ったりしていました。全てをこなさなくてはならず大変ではありましたが楽しい時間でもありました。

家族の反対は特別ありませんでした。ただ、

銀行員だった父からは「会社をつぶす事は社会悪だよ。人を雇えばその人だけではなく、その家族の生活に対する責任も発生する。取引先に対する責任もある。信頼してくれた人たちに裏切るようなことはないように」と釘を刺されました。会社の危機が訪れるたびにこの言葉を思い出しました。

スタッフが増える

1998年新事務所設立。新しくスタッフも増え、2名の役員と共にどんどん業務を拡大していきました。新しいメンバーはそれぞれの得意分野を持っていました。私はプログラミング。一人は印刷関係とWEBの営業。もう一人は企画ができるデザイナー。それぞれの持ち味を生かしていこうと、DTP(紙面のデザイン等です)・プログラミング・WEBの3本柱を掲げて活動を開始しました。

3人で始めたばかりのころは、売り上げを上げるのに精一杯でした。お互い考え方の違いもありましたが良いディスカッションができるメンバーでした。

いろいろこなしながら、「もっと面白い仕事を取っていこうね」が私たちの口癖でした。床に新聞紙を敷いて徹夜で仮眠なんてこともしていたそんな時代です。

そのころ、当社にいらしていたある会社の役員の方から「工藤さん、会社を成長させるための社長の仕事というのもある。実務をこなすだけではなく、いろいろなところに経営者として

参加することを積極的におこないなさい」と助言を頂きました。

その後、起業家大学にも参加したりして、経営という意味でいろいろ勉強をするべく積極的にいろいろ参加するようになりました。メンタルな面での経営者の育成という意味ではすばらしいものがあったと思います。「あきらめない」とか「夢は必ず実現する」と思い続けることがどんなに大事なことか学ぶことができました。

他資本が入る ファンドの活用

だんだんとスタッフも増え、本来やりたかった Web の仕事が増えて来て、東京事務所と仙台事務所を開設し、本社の盛岡とそれぞれに役員が各拠点を見るまでになりました。

転機が訪れたのは 2005 年ごろです。当時岩手県では「いわてインキュベーションファンド」というファンドを立ち上げ、投資をする先を探していました。盛岡工業クラブに所属していた私は、当時の東北電力支店長からチャレンジしてみませんかとお話をいただきました。

会社を設立して企業体力をつけるにはどうしたらいいのか。資本を大きくして行く為にはどうしたらいいのかわからない中、銀行の担当の方に聞いても「地道に」としか言われなかった私は、もしかしたらこれが大きなチャンスで、商店ではなく企業として基盤を作るいい勉強になるかもと思ってお受けすることにしました。

ピンチなとき真実が見える

この判断は、のちのち会社の存在を揺るがすことになりました。会社は、みんなが同じ方向をみることができないと、特に小さい会社は舵をとることができなくなります。当社の場合は、意思確認をしたつもりでしたが、役員同士の考える方向性を同じくすることができませんでした。

資本を入れていただいた後、それまで良かった物が、思うような結果を生む事ができなくなってきました。資本として投入した現金がそこをつき、売り上げもままならない状態のとき、一緒にやっていた役員は二人とも会社を辞めて行きました。これは、多分コミュニケーションが大事だと思っていたにもかかわらず、きちんとできなかった私に責任があるなと思っています。

私は、コミュニケーションが必要だと、コト

バではわかっているつもりでした。あくまでつもりです。でも、その取締役と十分に気持ちを通して意思疎通を図ることができなければ、まったくもっていろいろな判断は意味のないものとなるのです。

多分、基本の経営をやってこなくて、その取締役たちとはお友達同士だったのでしょ。そして、コミュニケーションは社長自身が取らなくてはならなかったのに、それを怠った結果がこのような事になったのだなと思いました。私自身、社長という立場上資金繰りをしたり、対外的なものの折衝をおこなったりすることを主の仕事としてきました。だんだん現場から離れて、現場をみるのは各拠点の取締役だと勘違いしていたんですね。でも今更ながら思うのですが、現場を把握しコミュニケーションを取る努力をしなければいけないのは私なのだとつくづく感じるのです。

その時、会社には東京事務所や仙台にも事務所がありました。経費も沢山かかっていた。

最終的な決断として、継続したいスタッフは自宅で仕事をしてもらい、事務所は盛岡に集約するというにしました。その数ヶ月後、リーマンショックが起きました。世の中は大変なことになりましたが、偶然にも経費をできるだけ削減できていた当社はなんとか乗り切ることができました。そしてそんな大変な時でも支えてくれるスタッフだけが残りました。結果、この経験とスタッフ達が私の宝となりました。

経営をして行くうえでは、冷静な判断が必要なのが多々あるのです。

ピンチなときほどチャンスも見える

そんな中でも、種まきだけは忘れませんでした。仕事につながるかもしれない可能性のあるところには積極的に顔をだしたりしました。仙台に行って、経済産業局に電話をし、「今岩手から出て来たんですが、相談にのっていただけませんか」と電話をし、今後の世の中の流れを知る事はできないか聞きたくて突然訪問したりもしました。国や県の予算の用意の仕方がわかると次の一手を考えやすかったりします。あくまで参考ではありますが。たとえば、当社のパッケージソフトを販売するにあたり、農商工連携の予算が主力になるのなら、そちらへの PR を強化したらどうかなどです。

経済産業省へ当社の PR のメールを送った事

もあります。だめもとだと思いつつも、諦めずに実行あるのみです。きっと相手にされないだろうなと思いつつ送ったのですが、案の定返事が返ってくる事はありませんでした。そんなもんだらうなと思っていたら、その方から別な部署へ当社を紹介下さったようで、結果、経済産業省へ送ったメールは半年後に実際の仕事になりました。すでに5年目に突入したエコポイントの地域産品提供の仕事です。この仕事は、私たちが運営するまがりやネットのPRにも繋がりました。

そして、2011年大震災が起きました。このとき、私は本当にスタッフ達に助けられました。なんとか軌道に乗って来た会社が、この先どうなるか不安でなりません。「まがりや.net」でお世話になっている沿岸の生産者さん達がどうなっているかも心配で心配でなりません。でも、私たちはIT企業としてできることをしていこうと、スタッフ一同同じ方向をむいて活動することができました。私たちのような仕事はあのような非常時では、真っ先に仕事なくなります。回復するのは優先度としては後になるものです。6月くらいまでは営業もままなりません。なので、避難所にいる方々の名簿をインターネットで公開し検索できるようにしたり、仕分けのボランティアをしたり。とにかくスタッフ一丸となって今できる事をしようと心に決めて活動しました。これまでお付き合いのあった生産者さん達から「生きてたよ」の電話が入るたびに、みんなで涙を流し、次にできる事を自発的に考え行動することに繋がりました。出来る事からこつこつとです。

きっといろいろなところで、そんな思いで仕事をした人たちが沢山いると思います。でも誰かがやっているからではなく、自分たちがするべき事をぶれる事なく一丸となってできた事は、今となっては、本当に良い経験となりました。

妄想がアイデアを生む

最近の私のブームは妄想です。私は、会社の事業を常に3本の柱をたてておこなって行きたいと考えています。少し前は、開発・デザイン・「まがりや.net」でしたが、最近開発とデザインが切っても切れない状況になっています。なので結果2本の柱になってしまいました。だか

ら、3本目の柱を新しく構築したいと考えているところです。こんなこといいな、できたらいいな妄想を膨らまし、今度は「まがりや.net」の実店舗を構えたいと構想を練っているところです。あ、今は妄想しているところです。

日々のアイデアは妄想から生まれます。よくうちのスタッフも妄想しています。あまり大きな投資が必要でなければまず試すという感じ。一人妄想会議から少しづつアウトプットし、何人かの妄想会議になり、そこから事業となりうるように育てて行く。そんな日々となっています。

妄想-構想はわりと積極的にアウトプットするようにします。なるべく口に出すようにしています。そうすると興味を持った人たちが周りに集まってきます。私は一社一人勝ちはないと思っていて、複数で協力しあうことがこれから求められてくると考えているからです。

今は谷を抜け少し積極的に動くタイミングだと考えています。だから、ますます妄想がふくらんでいく毎日だったりします。

そして、私たちが提供するサービスは、実は地域貢献という一つのキーワード上に全てあるように考えています。お金がなくても地域貢献はできるというのが私たちの信条です。だから、スタッフが出してくるアイデアもまた、何かしら地域に貢献できる事業を提案して来てくれます。もちろん「まがりや.net」も地域貢献を念頭においたプロジェクトでした。インターネット環境がなかったりインターネットが得意でない素晴らしいものを作っている生産者さんにも、インターネットで販売する機会を提供することができないかと考え、東北の逸品を販売するサイトを立ち上げることになりました。産地直送ですが、インターネットに関連したところは当社が全て行い、生産者さんはものづくりに集中することができます。

発送伝票やメールのやり取り、入金管理などはすべて当社で行って、生産者さんは注文通りに箱詰めして送るだけとなります。

ぜひ一度「まがりや.net」を覗いてみてください。

最後に当社の経営理念です。

社会への貢献—

社会への貢献なくして、個人・企業の成長はありえない。社会を意識しつつ自分たちができ

ることをこつこつと積み重ねることが、私たちが生活する社会への貢献に繋がり、ひいては私たちの成長に繋がる。

- ・企業内においても他部署に貢献（協力）することによって、企業全体が活性化することができるようになる。

顧客に感動してもらえらる企業一

感動とは、顧客の想像を超えた商品やサービスを提供すること。

- ・制作する側、開発する側にたった商品やサービスではなくお客様の立場に立った気遣いが大切。
- ・いろいろな物に興味を持ち感動することが、感動の商品やサービスに繋がる。

スタッフが夢を持てる企業一

個々の生活の向上ができ、仕事へやりがいや充実感を持てる企業。

- ・アイデアを出し合い、面白いと思う物を形にしていこう。（まず形にすることが大事）
- ・会社の利益の向上は、スタッフの利益の向上に繋がる

当初から私の会社がスタッフ一同このように考えてほしいという理想をあげた物です。スタッフにはお客様に喜んでいただく事に喜びを感じてもらいたいと思うし、スタッフが「ホッブスにいてよかった」と思ってもらえるような企業になりたいと思う私の気持ちを表しています。拙い話をご清聴くださいませありがとうございます。ありがとうございました。

例 会 報 告

**第 36 回例会
平成 26 年 4 月 4 日(金)**

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司 会 平井 滋会長
- ・ソング 奉仕の理想
- ・国歌 君が代
- ・会長報告 平井 滋会長
- ・ゲスト 工藤昌代様 (株)ホップス代表取締役)、シュヌリゲ マチルダさん (本年度長期交換留学生)。
- ・ビジター 新沼義雄さん (大船渡 R.C.)、鹿志村昌広さん・守屋和彦さん・田中広江さん・高橋淳一さん (盛岡西北 R.C.)。

- ・皆出席バッチ 田中堯史君 (26 年)、吉田幸一君 (20年)、吉江信博君 (4 年)、竹中陽一君 (1 年)。
- ・入会祝 田中堯史・吉田幸一・古山明廣・吉江信博・星 克彦・竹中陽一君。
- ・誕生祝 吉江信博・星 克彦・樋山 桂君。
- ・結婚祝 吉田育弘・荻野忠良・熊谷祐三・長谷川 桂・勝 雅行君。
- ・幹事報告 平野佳則幹事 終了後定例理事会

- 盛岡西 R.C.= 4 月 17 日 (木) は、地区大会参加のため 20 日 (日) 地区大会会場。
- 盛岡南 R.C.= 4 月 22 日 (火) は、観桜会開催のため 18:30~「鈴徳」。
- 盛岡滝ノ沢 R.C.= 4 月 17 日 (木) は、地区大会参加のため 20 日 (日) 地区大会会場

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡北 R.C.= 4 月 23 日 (水) は、観桜会開催のため 18:30~「鈴徳」。
- 4 月 30 日 (水) は、特別休会。

【ニコニコ BOX】

◆(本宮一丁目の会社の)岩野法光君…会社の近くで若い人達が入り出している所があり夜遅くまで電気がついていたりしていたので気になっていましたが、今日やっとその疑問が解けました。工藤さんこれからがんばってください。

出席報告 会員数 / 69 名 出席数 / 44 名 出席率 / 64.71% 前々回修正出席率 / 休会

**プログラムの
お知らせ**

- ・ 4 月 11 日(金) ゲスト卓話 小池祥子様 (株)フリーダムデザイン 専務取締役
「インテリアコーディネーターという仕事の醍醐味」
- 18 日(金) ゲスト卓話 田中俊恵様 (岩手県警本部 本部長)
「警察本部長よもやま話」
- 24 日(木) 観桜会 (25 日例会変更)
- ・ 5 月 2 日(金) 特別休会
- 9 日(金) ゲスト卓話 畠山節子様 (NPO 法人 ボランの広場 盛岡地区父母会 会長)
「ボランの広場活動報告」

- 本号編集担当 / 高柳 一郎
- 次号編集担当 / 加藤 正幸